

1. 教育の責任

管理栄養士は、医療、福祉、スポーツ、学校、企業など幅広い分野において、人々の健康と生活の質の向上に寄与する専門職である。本学健康栄養学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる「高度な専門的知識」「課題解決能力」「高い倫理観」を備えた人材の育成を教育の責任として位置づけている。そのため、学生に対して管理栄養士としての使命感と社会的役割を理解させるとともに、食品衛生学および栄養学の基礎的知識・技術の修得にとどまらず、●課題を自ら発見し解決する力 ●他職種と連携するためのコミュニケーション能力 ●社会的責任を自覚した行動力 を段階的に育成することを重視している。管理栄養士養成課程を通じて、学生が健康と栄養の専門家としての自信を持ち、積極的に社会課題の解決に貢献できる人材となることを目標としている。

2. 教育の理念

管理栄養士養成課程の教育理念は、学生が人々の健康を支える専門家としての使命感と尊厳を自覚し、豊かな教養、専門的知識、問題解決能力を備えた人材を育成することである。なお、本課程では管理栄養士国家試験合格を重要な到達目標の一つとして位置づけつつ、単なる知識修得にとどまらず、学んだ知識を実社会で活用し、自ら考え行動できる力の育成を重視している。

3. 教育の方法

(1) 講義科目における工夫

「食品衛生学」「食の安全・福祉の法律概論」では、国家試験対策を意識した体系的な知識の整理を行うとともに、現在社会で発生している食中毒事例や食品安全に関するニュースを取り上げ、学生が社会とのつながりを意識しながら学べるよう工夫している。

また、L-Campus（エルキャンパス）を活用し、各回の授業ごとに重要事項に関する課題提出を義務付けることで、知識の定着と主体的学修を促している。

(2) 実験科目における実践的学修

「食品衛生学実験」では、講義で学んだ内容を実験によって再確認できる構成とし、食中毒菌の性状や食品中の化学物質の検出など、将来、栄養士・管理栄養士として実務で活用可能な内容を重視している。

4. 教育の成果

課題レポートや学生の振り返りによると、食中毒菌の生態や食品中の化学物質について、実験を通じて理解が深まったとの意見が多く寄せられている。また、食品衛生に関する社会的話題を授業に取り入れることで、単なる知識の修得にとどまらず、栄養の専門家として社会で生じる課題にどのように向き合うべきかを考える契機となっている。

5. 改善への努力と今後の目標

近年の管理栄養士国家試験では、知識の単純な暗記では解答が困難な、思考力を問う問題が増加している。これは、実社会においても、知識を基盤としながら状況を分析し、適切な判断を行う能力が求められていることを反映している。原因と結果の関係を論理的に理解する力、科学的根拠に基づいて判断する力をより一層育成できる授業設計を行っていきたい。

【添付資料】

各授業スライド（非公開）